

心電図とは



心臓の筋肉の電気的な変化の波を心電計という機器を使って記録したものが心電図です。

図のように大小いろいろな上向き・下向きの波が、一定間隔で規則正しく連続して記録される場合が正常です。

心電図でわかること

大きくわけて、主に2種類の変化がないかを見ています。

1. 心臓の筋肉に異常がないか

- ① 心臓の筋肉に酸素が十分届かない
心筋梗塞（こうそく）や狭心症があてはまります。
- ② 心臓の筋肉が厚くなる・心臓の各部屋の血液量が増える
高血圧、弁膜症、先天性疾患、心筋症などがあてはまります。

2. 脈の乱れがないか

心電図の波のリズムが不規則になります。種類は多数あり、この検査で分類されます。

*その他、自律神経の病気の診断、大きな手術の前後のチェックなどにも行われます。



心電図のあれこれ Q&A よくある質問にお答えします

Q：なぜたくさんの電極をつけるのですか？

A：いろいろな方向から心電図の変化をとらえることで、心臓のどの部位にどの程度の障害があるのかを推察することができるからです。

Q：以前は異常があると言われましたが、今回は正常だと言われました。なぜですか？

A：症状が出ていないと、心電図に変化が出ないことがあります。

Q：健診で心雑音があると言われましたが、この検査でわかりますか？

A：雑音は心電図で記録できません。しかし、雑音の原因となる病気によって、心臓が拡大しているなどの異常があれば、心電図に変化が出ることもあります。

Q：電気で感電しませんか？痛いですか？

A：感電はしません。痛みもありません。心臓から出ている弱い電流を機械で記録する検査です。

